

## 食べられなくなったとき

病気などの理由により、口から食べ物を取り入れることが困難になった時、以下のような方法で栄養を入れる事ができます。



### 点滴（てんてき）

#### ①末梢点滴（手や足の静脈からの注射）

基本的に短期間のみ使用し、水分・薬剤の治療に用います。高カロリー点滴はできず、おおむね2週間以上続けることは、血管にも負担となるため好ましくありません。



#### ②中心静脈栄養（首や足の付け根からの注射）

高カロリーの点滴ができるため、栄養を補う事ができます。長期間入れたままにできますが、感染を起こして高熱が出る危険性があります。そのため定期的に注射部位の消毒を行うなど、医療処置が必要不可欠となります。

## 鼻から胃へのチューブ

鼻から細いチューブを入れ、高濃度の流動食を注入します。

2週間に1度、チューブの交換をします。

デメリットとして鼻に常に管が処置されているため、違和感が常にあります。また、痰が増えることもあります。それに伴い肺炎をおこす場合があります。

胃ろうと違い、体に傷をつけずに栄養を摂ることができる方法です。

チューブ栄養が長期間になる場合には胃ろうをつくることをおすすめています。

## 胃ろう

内視鏡のもと、お腹に小さな穴を開けます。胃に直接管を入れ、その管から高濃度の栄養剤を注入します。腸は使わないでいると萎縮してしまいます。腸管に問題が無ければ腸から栄養を吸収させることにより免疫機能を維持する事ができます。場合によっては、嘔吐や下痢を起こし、胃ろうからの栄養ができない場合もあります。まれに管のまわりがただれてしまうなどのトラブルを起こすこともあります。



### 自然な看取り

点滴や胃ろうなどの人工的な水分・栄養補給を行わず、自然の経過にまかせるという選択肢もあります。徐々に衰弱し、最期を迎えますが、痛みや苦痛を和らげる治療（緩和ケア）は行われます。自然な状態を経て平穏に最期を遂げることから、「平穏死」とも呼ばれます。

担当の医師や身近な方ともよく相談し、価値観にあった道を選ぶことが大切です。

なお、パンフレットの中のわからない用語については職員にお尋ねください。



# 自分らしく生きるために 「栄養法について」



もし、あなたが病気や事故などで判断ができなくなったとき、どのような医療を望みますか？  
最期の瞬間まで、こんな治療を受けたい、また、  
こういう治療は受けたくない、という意思決定を行う際のお手伝いができればと思います。  
ここでは、病院などで行われている  
いくつかの治療についてご説明します。



はるな生活協同組合  
高崎中央病院

お問い合わせは、担当医師・担当看護師まで

電話 027-323-2665

住所 高崎市高関町498-1